

「くらべてみました」

スイッチON!! 年々花粉症がひどくなる。。。そして加齢とともに症状も変化している、、目がかゆいときはあつたけど、最近副鼻腔炎に近い炎症が、、コロナ渦だからくしゃみとか鼻をすするのも周りの反応を意識してしまう、、

気づいてみると東京はコンクリートでコーティングされている街だから、花粉も風で舞い大地に吸収されないんだろうな。改めて、人工で杉を植樹し環境を変化させたツケを、身を持って改めるように責め立てられてるのかもしれない。

さて、自粛要請でもろに痛手を被っている身近な産業としては、接客業になるだろう。とくに、身近なのは飲食業。居酒屋さん。めっきり行かなくなったし、時短要請で会食のタイミングも減ってしまった。コロナの世の中で、売上が減ったという表現より、蒸発したといったほうがイメージが湧きやすい。。。

そんな中、介護業界は感染予防に関してはご高齢者がいる以上、戦々恐々と本当に冷や汗の連続だ。ましてや、今後ワクチンが摂取できたとしても、感染予防という365日の意識は世間からより意識向上をもとめられるだろう。むしろ今回導入した感染予防の施策をベースに進化していくことになる。一層感染予防を必要経費として認識していかないといけない。

ところで、飲食店とくらべた介護業は、接客やお客様に対して、多くのサービス時間を注ぐことができる。それは、連想ゲームで言うと

- ① ビールの値決めをしなくていい → 介護保険という制度で値段が決まっている → ダンピング(価格競争的な)のリスクがない
- ② ツケや代金の回収、レジの打ち間違い → 国が支払ってくれる → 売上が回収できない貸し倒れのリスクがない
- ③ 営業としてビラまきや呼び込みでの流動客 → ケアマネや待機者から紹介の固定客 → 積み上げ型のビジネス
- ④ 営業時間以外の仕込みやその時間帯の客に合わせた時間拘束 → 3交代等の勤務シフトのコントロールが可能 → 労基署や行政指導に守られた人員体制
- ⑤ 知らない他人のお客のトイレ掃除、嘔吐物の掃除 → トイレ介助等の身体介護 → 家族以上に知っている個人の接客

ざっと比べてみても、向き合う時間は、仕入れ代も現金回収も、営業施策も、近くの居酒屋の動向もウォッチ等々。。実は、アルバイトさんも社員さんも居酒屋ではあたりまえに全員やる。役割分担は難しい。

いろんな居酒屋さんの要素をみても、介護業は、お客様に全集中できる。

いろんなしながらみや人間関係はあると思うが、そんな事を考える時間を職場に持って来れるほど、居酒屋は暇ではない。

言い換えれば、介護業は考える暇がないほどお客様、入居様、ご利用者様に関わって頂きたいという思い一心である。

小さな池の出来事ではなく、コロナをきっかけに介護業界がどれだけ産業別にどこにいるのかを俯瞰するきっかけにもなった。居酒屋さん大変だな～ではなく、その気づきをあなたの環境と比べて見てくださいね。



理事長の頭の中
～おまけ動画～Vol.3



社会福祉法人 千歳会
理事長 左 敬真



